## 鉄

## 火

### 創刊号

共產主義者同盟生化学細胞機関誌

ことをまず明らかにしたい。

ところで軍事組紅をつくりだすことは、

辞

為ての生化学の戦斗的特位者諸君。 **我が共産主義者同盟は生化学にプンド郷股を差諾した** 反母理化斗年・多期一時金斗年を革命的に斗りぬいた

織区どのようにつくりだすかということにあった。 ようやく再連撃の基礎を固めた。この間の党内手争は、 年半、我が同盟はこの周、激しい楚府手争を展廃し、 つまるところ権力との本務的な战斗を斗りぬける軍事組 著田の敗北から一年、赤軍承の代が同盟からの離脱一

**熊利しえないということであり、** ているということである。 とつくることなくしては、支配者階級との一切の手争に つくりだすことはできるし、又写やそのような軍事種語 ような軍事母紅に競技することにより、 伐々の立場は、日本においてもそのような軍事組織は 社会学で共産党はごの 反革命に転化し

争へ、革命政府の間立へ等びかにははらなり。この様

存成者をつくるために日本人民の一切の数力は、蜂起の

一份付着党をつくりだすことを前提としている、その為に 新た了単一の

デオロサ

一的だ話が必要であった。我が内部のスター

盟をこりょうな政治的立場と軍事を組織する党としての 事備と武装子争の推進に集中されぬばならない。がが同

内実をもった本格的は蜂起党にするためには、

単一政府の樹立である。そのためには、月方がっている 争に放対している草マル派を、正要内部からたたきだし 武装千年を単一指喜新世界党と単一の軍隊で世界赤軍し 庄産手段を集中した世界単一のプロレタリア独裁し世界 は、オーに、反スタ」という美名の下に全世界の武装斗 大臨時華南政方は「帝国主义の侵略反革命之世界革命的 立場は、各民族国家の常備軍を解件し、用世界の重要な 一堂の下へ程集して呼くことが必要である。その政治的 大雲運動主義的京爺一難線を解本し、蜂起を実現する単 に辛いられた世界革命战争に組成することが心要であり 、十二に、六〇年代の夢をセラー度と追う中核派以下、 日本の労作者人民の斗いは、 このよう。日方向区つき進

### A 次

(I)	創刊の辞	/
\$	<b>錠へもけた労仂者細胞を建設せよ♪</b>	· ······ 2
$(\mathbb{I})$	生化学斗争の総括	5
	超同結成~夏期-時显	
(2)	万号理化斗争	6
(3)	冬期一号显于争	
(3 -	-1) ブルブョアイデオロギー、経済主义名を	•
	蔵屋的に粉砕せよ!(政治上の発括)	······ 8
(3-	2) 革命的社研を創出せよ!( 組織上の党括 )	13
$(\Pi)$	<b>最</b>	

A 西氢

国主義

軍隊

東華原

17

マッピンストンとして权力斗争の型をさし示し、

軍を

武

装

斗

17

設一武城斗争の組紙化に着手することは出まながったの 年委員会運動を租配することによってしか本格的な党建

である。既に昨秋安保決成においては八中央权力斗争

世界

せ

政治的意志統一を行し、銃の単一党建設に向けてその巨 **を放逐しはければならなかった。 母がアンドは一二月一** 歩を前始した 八日の共産同中央政治集会にて、次のスローガンの元に らおかったし・「 反ズタ」草マルへの敗北者、日向一派 ン主义者
玄松珍に
むすびつく
情況
派を
たにきださゆば
な E 解体 界革 派共 区实 反 ス 現 主義 党 る 革 争 Z 主義 を 建 命 芝 世 界党 世界 復権 を

度と踏襲してははらないのである。へ見はブルジョア枚 元論的立場はオニ次プンドが斗かってき、全であり、 ばおらないときえていると即ち、党形成一階級形成の二 主义・経済主义者との党派斗争の環として明らかにせわ 区共手運動の构架」として運動支展開せんとする自和見 **问題について尼括し、今日的には「ソビエト型組結=地** 立と軍り建設(S幹起と党細胞の任務を提出することをも んしてあったのである。 、おり、全党あげて斗かったのでありっ党としての斗争し 見主义という主張の中では明らかにすることは出来ない **進主义者、政治技術者中核が言う、マンセンスト=日和** 命華マル派が言う如く裸かどりだとかあるいは小ブル系 って写明らかにすれわばならない。我々はとりわけにの 積した全力を集中して大阪中電マソセンストライキとし て明らかにしたのである。だがその敗北と教訓は、反革 者自己权力於を基調にした、社分研」運動から出発して ソピエト州にに発展していった全風程を、その战斗性に 中電スト実はブントがその組紙内実においても中心で いや安保来成という政治過程にないて我々が蓄 その教訓は一世太子争路線の確

一野起

SIG

2至立2路桥

スタ・色なるなる

正規軍の下 統合せより

へ全人民武装を

獲得でるのみで、多くは一〇・八羽田斗争・地区反战官 きえる た、互革が運動を開始したのであった。とりやけ労力者階 えず、長崎造飾、大阪中電、港地区委員気の三大拠点を 級の内部では日共との熾烈な党内十争を斗うことが出来 年安保斗争の高揚の中、 べきなりがという革命党の基本向題を明らかにしたい いかは金に 新元製だが人ずく我が共産主义者同盟は、五八~六〇 我が同盟は、七〇年代恒常的武装十争を蜂起=臨時革 蜂起へむけた労仂者和院を裏設せよう 細胞運動とプロレタリア独教权力を樹立す 日本共産党とにもとを分ち、新

P

す

主義

よ

取のプログラムの問題として提出するであろう。 YE政府を組織する党建設として考えており、 又权力奪 あり、政治的には党と軍の任務の向題である。 るを得おい。それは世界党の下、世界政府(単一共和制 残得されるプロレタリア权力の性格と内実に規定されず である。こそれはとりもなめまず党一里によって準備され 支配階級として形成する道であるというのが我々のな話 発生性の一切を体系づけることこそプロレタリア しにかきかえらればくてばばうばい世界プロ独の向題で を打倒して、その党のもとに、プロレタリアートの自然 党派斗争を通じて、この革命家の組紙をそれ次部に建設 力を打倒し、プロレタリア权力をうちたて、共産主义社 し、位階級のプロレタリアートへの私還者である世紀表 切を代表する革命家の組織であり、プロレクリア内部の 気を切り向りていくプロレタリアー トの革命的性格の一 我々はそ ートを

し荷う党が建設がたれられていたはらば、それは生建国 ておこう。 さて今日のソビエト派に対する現実的な批判を提出 何之は労研 - 社師、行動委員会を後万と組織

大は組織しとしての位置を与え党の下に統合せぬばなら げ一方式では今日的に致万の階級組織、ソビエト型組衙 については歓迎するものであり、レーニーの言う。ルー うことである。 はいと考えている。 は無慈悲はまでの党内党派斗争を展開するであろう。だ にかけろ蜂起川革命の流産を必ずもたらすであろうとい 我が同盟はその様はソピエト主义者産と

争人の敵対は、酢水平甲支がまえを時点では反革命的行 である。この原則からの定能と、それを以っての武装手 為である。 日党員の軍隊を中夜にした非合志党だけであり、一切り | 記下出している。現在的大革命で直転する理象は、強闘 走設区のきり組織路線は全てが組織をびに乗るという船 実践ー細胞建設」のうちにかりとら明的はならないので 区的田結しにその革命性と党派性が獲得されるのではら 人民の草命のエネルギーはその中にのみ頭のえられるの ある。我々は愈かにじむ実践の中から、単一の基合法堂 く、「蜂起へり目的意識性」と、な力を取ざれへの銀種 労力者諸君。 今日的兄労仂战級における当いは、地 へ以上「战·康」 三五の号もリン

> 建設し、生化学内の労力運動を自信をもって領等してゆ くことを革命的労勿者諸君の前に高うかに宣言する。 すでに粉砕し、文字通り解起に向けた張固はる党細胞を う状況派ンとの職烈は党派斗争を通して彼りを完かはき 実に動いている一軒の分子と横線翼地区工代伝説に果喰 に総許全国一般民間にあやつられその命ずるがままに忠 の到達点をいきまえね一切のソビエト派へ経済主义者特 代々生化学アンド和胞は右翼は勿詮のこと、階級斗争

能てり革命的労仍看は 共産主義看同盟の旗の下に 173 粉果せより。

産生的 として投う、 を引者と和此建於の英な 恐れずるを建的、かれた 門的 日間軍と記を中大師を 三本立て路は、スタセラの発海 重遍

全面的前行的統括をここに明らかにしたい 地平を確とだ話し、次の战斗に向けて代々の血肉と化し といっても過言ではない。我々はこの斗いの切り用いた として、七〇年代の階級的労仂運動の生蜂を荷っている 革命的斗いを知らない者は皆無に寄しく、横須賀地区は 力とを与えつつある。同や久里浜地区に於ては生化学の 敗退を重ね続けている日本の全労仂者に限りなき勇気と 勿記りこと神奈川全県に於ても有数の成斗的革命的組合 更に強固で質の高い革命的租后に低跌発展さすべく

**背負いながら代々は組合活動を推進してゆかねばならな** 単にそれだけの目的でしかわかったが故に、資本のアカ **労小組引を結成した。付がその当時は国話の質が、ただ** ものであるという組合主義に毒されていたがために、民 けった。そして代々にヒァては組合というものが最上の きずに、オニ組合の結成を許してしまった。その敗止を 攻撃(イデオロギー攻击)の前に有効はる反击を狙紙で 我々は一月二四日代なり生活と中の条件改善のためにへ一)組 唇 結 成 く 夏期 一時 屈

# 生化学斗争の 危 括

構技物車を已まりしている 一抗設集感をもって選却战をほぼ全面的に斗り終えたけで を构築しなければならないとこの一時風斗争は徹底して げ、新たなる战略成体をうちたて人次の战斗」春斗に向 けて我々の战列をたてはかし、我々の弱さを見宝に克服 し、見力をあげて斗争女階級斗争として斗りぬける陣型 は、根拠地にもどり、伐々の理訟的武装支完全に成し数 とを言うのである。又徹底した十かりは総ての人向から マに創造力あかれる十いとは、充実した十いとはこのこ までに州竹者全員の創意と工夫にみちあみれた、又指導 (組合の全体的力量より見て)斗かったからこそ、受け かったのである。 リと一人一人その姿を赤裸々に暴露せしかずにはおかな と被指導がこれ程見事に免むされた汁いはなかった。ま る被害も最小限にくい止めることができたし、又これ程 一一二月二八日時向内に三〇月旬食い込む不当处分散回 その偽善的ヴェールをはぎ取り、右から左まではつぎ

あの一〇と数有目にわたる強固なストライキは、日々

罪的行為を犯したことを痛苦の気をもって自己批判しな 自然発生的な即物的はもりでしかなかったが遊に、皆に 継回はどと呼ばれる存在ではなく、資本の御用機関であ 同的というより帝国主義的労仂組合がみの組合活動でが 再員は野水を放り出し資本に配していった、それは野水 あったとは言え、要求を思中で下ろしてしまうという死 普遍的利益として作成されたというわけでなく、単なる マの要求が緻密な企理に書かりた労勿者階級にとっての を誰一人として説明し得力がったというなどい要実では 我々の主体的力量の不足の故に敗北するのは心然で にしても求して許されるべきことではないい 特に強調しておかなければならないことは、食 といった状況であった。 へ長社回路が出るや否や殆人どの教行 (勿論十二組合は

がすべきはこのは子的大衆ななずあったし中市もおか見は も許されるべきことではおがったのである。我々だ妻の依 又、統部民間に教えられた芸器抜散ストなどという依頼 战斗的に斗う都里を正教したことは何が何で

> を合われていったのである。 最后まで貫徹する立場区放棄し、敵が与えた四千円に目 そうであらねばならない。 一時間に於ても状々の要求を

象集田がおくては組合活動の真の目的を見失うというこ とになるのであるが まり階級斗争を領域する革命党・それに指導される活動 点で租后活動を展開し得ないということはのである。つ ったろうし、我はは階級十年の到産気と決して無縁は地 で行うとどういうことにはるのかを我はが知ることであ うものは組石稀成をも居めて、革命的党派と無視な地点 **いろだろう。だが根底的はな帝は、まさに組合活動とい** これら一切は我々の力量不足故をもって仕方はしとさ

'no(ニ) 及尼 理化 斗 爭

免疫を迎えってあった。 だがそれを教ってくれたのは 何と事物にもプルジョアジーであった。我々は子早を 以下的労働運動を展開していた租村は必然的に服実の 華紀的党派と無縁の地局で、又、民間的あるいはそれ

投が生化学ぐらいしかはロということは誇りに足ること はがらパートの解雇でキラという組合は数多ある中で、 のきたない取引さをまのあたりに見せつけられたのであ 労什里動は草命的党派と階級斗争と切り離して展前され 遊けに代々は、怠枯らしい危枯をもはすことができた。 かを獲得し始めたのである。そのだ話は手手歩富気のだ 主义者との党派子争も成始され、大衆も又独名の何にる である。この斗いのは枯をめぐって、経済主义者や組合 るべきでははいことを、我々は升 おか。我なの自己批判とその直服のためにして降火心し る。敗北したとは言え、 自然を組織し、子のない組合をつき上げ子手の巨大なう の革命的介几を受け、 ねりをつくりだしていった。この子名中華同党=プレド 彼等を粉砕することができなかったのである。 )を我々は圧面的に受け継で。 階級的労働運動の端初を切り雨くことがごきたりであ にが代ロリカ量不足故に我々も民間並のことを行し 代は、階級として目覚めさせられ 初めてのそいらしい子いをけ 伐なはそこで統許民同 リの数割として得たり 怠ったが改に、 リ戻していったのである。 だが代々は確信する。 (三)冬期

なれいか

祖念清朝四月的时,堂姐村里往是7772

自己批判しなければならないだろう。 だが是塔風程に於てブード内部での機型は原内斗争を反 若干古還主义的偏回をおかしてしまったことを

の指導があってこを翔后も又、本来のオー細信の安を取 この反合理化斗争で代々も組合も鍛えられ、革命的党系

時短斗争

継りでいこうとしたものであることを・一旦目覚めた組 うとしたことを租信員は何とかつかみ取り、それを引き の圧制に対する優ながまたるエネルギ 大衆の自然発生的怒りは爆発した。それは自々の、資本 の形成されぬままに一時風斗争に突えしていった。だが が成されねばならないことを明らかにした。 代口は反同斗争の怠枯に於て、階級的指導が勝の創設 又時向的泉裕の欠如のために、指達即隊 あの反同理化斗争で併々が付そ であっただろう だがそれと (2)

我々は党派の任務としてこの自然発生的は十八名、

目

Ezin 局中一位在化 華岡南越東

· 月心・優) 経済 hyis 格は常田宇 が不明 る必要があるのである。 利に向けて、一屋都成として斗りを粗なすることこれを あり、であるが放に、最后の一回の階級決成で於ての勝 ザーで武装した労力者を粉砕することができなかったが のであり、そ収放に斗りは常に階級的斗争として粗転す 又階級手争も、マルクスが言った加くに負け続けるので い。それは数多の実践によってしか知ることは出来ない 故に、階級手争へとを跃発展させることがごきなかった 的意識的な子いへと転化さすべく、つまり階級的斗争と して領導すべく努力した。だげしかし、指導部隊の欠加 会報に認識させることにある。だが大衆はそれを知らな 代々の住務は、大衆に改良斗争だけでは蘇目であ その一段前で敗北を喫したのである。 又、圧倒的に右翼的は大衆リブルジョアイデオロ

堂间的舞起,特耸

一定やストライキの賃金無力ツト要求等、権利斗争から指 お子学へをおしつる内容をもっていたのであり、 悪意語 リ、終焉な路の題号大気の草語報告にもあった意义、査 らかに階級的手手として手える課題を見んでいたのであ だがあの子いは単なる物取りの子いではおくして、 瑚

> を手かっていたといっても過言ではなく、月、 力を集中し、労力者階級の利益をにはう所の階級的手争 けく、まさに資本と労の者の非和解的対立・戦斗に至精 にではあれ、<br />
> 里組合員は<br />
> 民的要求などして<br />
> い<br />
> について<br />
> のでは 人一人はそれをを指しうる段階にあるだろう。 雅后員一

絁 ブ 経 ジョ 済主義者を tt Ļ アイ デリ 政 治 徹底 D

最高を対位は毎につけばければはらはいのである。 社会へ資本主义)を批判し得ることこれである。 リ資本主義の原製的批判 いだけ物はならない。それはオーは、このブルジョア 通りブルジョアジーとのを子として行う以上、 理於的弱さ川見福的未確立にあるだろう。十二日大学 我内が徹底した階級斗争として斗りを推し進め得付か ョアジーに対抗し得る理能的粗叛的武装が見了されて った最も根本的原因の一つとして、代々のもっている と理代帝國主义は「最友典世 、ブルジ つま

則の取引を許してはならない。折衷主義は断じて許して は労仂者の魂をブルジョアシーに売り捜し、物は取れど の斗いによりある程度は階級形成ものし得たものと確信 改良が勝り取れるのである。 **傷見への「順心」にあるのでもなく、彼らに対抗して、** かブルジョアジーに譲歩させる唯一の方法は、 けだらない。これはマルクス主義者の思想である、代々 も思想を売り渡す稲果となり、大衆は益々ブルジョアイ 大衆の革命的勢力を準備し、革命的斗争をすることによ やみ取り引きをするといった成術を用いんか、 つてのみである。徹底して子かって初めて些かばかりの人 している。経済主義者民間のかく、ブルジョアジーとの 我仅所軽減を百分数骸下ろこと、四寸、墓中的城北主火 取引してあるのでもはければ、彼らの利益文は彼らの に染色されてゆくりである。我々は決して原 彼らどの 即ちそれ

> と認識させることにある。 通して、革命以外には何ら向題の解決があり得らいこと 可自然発生性に依拠し大銀刀内内る幻想性リブルジョア 1デオロギーを、ブルジョア ジーとの決定的対立を通し し打ち研ラ、階級対立を認証させ、改良斗争の徹底化を 革命的段止主义による階級形及とは何か。それは大衆 大張の真り教育は、大衆自身の革命的は斗争とはられ

こと、力関係によって単价条件が決定されることを認識 係と我々が読み取ること、 争がはじめて被搾取者を教育する。斗争がはじめて彼ら できれば良い。あとは革命にとって独合はどうなのかと に彼らの力の限界を示し、彼らの視野をひろめ、 労仂運動にはそ川独自の原則は存在しらい。ろのである。 能力を高め、彼らの知力を啓発し、 そのそとであこらわれうるものでは決してない。 力だけが労仂者の利益を守る 彼らの意志をきたえ たに力関 彼らの 4

例えいかに優れた理论を持ち目的せていよう ٤ ŧ 山

向えばよりのである。

が親同は七〇年代的小運動の最前線を描える質をもって

いることを生態級成線の前に明らかにすることができる

との意義は大きく、これは革命的斗争の成果であり、サ理

いでこれら経済主义者を大衆的に粉砕したころ

略は術が誤まてるから、夫して大彩は階級的に鍛えられ

はしない。民国の战術師ち源資獲得から配力手でへとい

Br. Ide 15展版L 至厚海路 H上散文》。

主义とはり、自然発生的に盛り上っている時はその生頭 体順は、大衆の自然発生的エネルギーのみに依拠し、そ 争は於理では万く力だけどと表語するのである。彼らの う、一世状を最后まで智徹することのない条件斗争ではく 川を目的意識的予いに組施し得りいが故た、つまりもと はくおうのが当り前である。そして自らの依然の設まり 的、革命的子いに確認せんとする時は歴史に弾圧をし、 大衆は力関係さえも把握し得が堕落するばかりであり、 十八と正我するのである。それは反母手学での民間のな せは彼らは草命とは無縁の存在であるが故に、独包至上 は大衆をそのもてる経験と技術により奮起させ、階級斗 したことでありて、生化学内の芸品についても同分であ いかってみつりであるが、下裏が彼りをのりこえ、路報 階級的対立なぞどんはにお説教をしようとも、わから 又要求の不徹底さに無自覚な彼らは、回答の低い時 つきり被害は華命的聖派を正報するためて、プロレ ーナをかくまりこまれたところの、プルフョアイ

のことである。

野研し屋で月ければおりり!!。 「大学して我々に敵対するのである。彼らのその日和 関の過程で粉研しえにとは!!え、破産を首覚し得ぬこれ の組合主义者ともを母后の斗!!の中で、コッパみじんに が知る主义者ともを母后の斗!の中で、コッパみじんに が知られる。我々は右翼は勿説のこと、この経済主义 の組合主义者ともを母后の斗!の中で、コッパみじんに ががしるであろう。我々は右翼は勿説のこと、この経済主义 あかれるドン・キホーテ必もは、又再び我々に敬対しる の組合主义者ともを母后の斗!の中で、コッパみじんに ががし屋でりばいるである。彼らのその日和 関に彼らは、我々と共斗して石翼をたにくのではなく右

イデオロギー 全部与共産主义思想の確立がまずれてあり、領本とのイデオロギー斗争でもあった。我々ははからことにきプロレタリアートの階級最請で武装しているのではなはまがっことにきプロレタリアートの声が流れていたのはまがっことにきプロレタリアートの声が流れていたのはまがっことにきプロレタリアートの声が流れていたのはまだのうことにきプロレタリアートの声が流れていたのはませの斗いは経済斗争であったとはいえ、その根底に我々の斗いは経済斗争であったとはいえ、その根底に

ものとしてあるのだ

我々にとっては理念と战略战術は絶対に切離できない

少、常に成斗的活動家諸士の批判をあかず、党細胞を強り、常に成斗的活動家諸士の批判をあかず、党細胞を強い、自自的的要求であれ、これら総である。別於誤事ちや失敗は覚悟しており、常に成斗的活動家諸士の批判をああず、党細胞を強り、常に成斗的活動家諸士の批判をああず、党細胞を強り、常に成斗的活動家諸士の批判をああず、党細胞を強り、常に成斗的活動家諸士の批判をああず、党細胞を強り、常に成斗的活動家諸士の批判をああず、党細胞を強り、常に成斗的活動家諸士の批判をああず、党細胞を強り、常に成斗的活動家諸士の批判をああず、党細胞を強力、たる。

唐相陀一祖念o复疏=立つ。 alt语。

○何時はら人類はいかはる才三のイデオロギーもつくがありえない―― ゴルジョアイデオロギーがとれども対がありえない―― ゴルジョアイデオロギーをつくりだすがありえない―― ゴルジョアイデオロギーをつくりだすがありえない―― ゴルジョアイデオロギーをつくりだすがありえない―― ゴルジョアイデオロギーをつくりだすな主义的イデオロギーがある。 一時間のものははい。

一英国以革命象の組織に指導されない向は、プロレグリ をロすべきか) 文の庇護の下にひきえれることであるいへレーニン・何 主義者の任務は、自然発生性と斗争すること、ブルジョ 化区意味するからである。だから我々の任務、社会民主 発展はまでに運動をブルジョアイデオロギーに従属させ とはまさしくブルジョアジーによる労仂者の思想的奴隷 組合主义であ る方向に進み を強めることを意味するのだ。労仂運動の自然発生的な かなる離反も、とりも行かとアブルジョアイデオロギ 社会主义的イデオロギ てひきさかれている社会に、階級外力又は超階級的なイ りだせばかったし、 何はともあれ共産主义者のオーの任務はブルジョアイ の真の「階級子手」には「り得ないのである。 「はた何から労仲健動をひさけらして、革命的民主主 の庇護の下に入ろうとする組配主义のこの自然発 一などは決してありえないからである。だから り、労の組包書一主义であるが、 プロレタリアートの自然発生的手いは、 それに又、 何故のら自然発生的な労伍運動とは 1) いかなる軽視、それからの だした 川階級矛盾によっ 路台主义 Ť

> 待する経者主义者との文字通りの血の党我斗争をはし成 げ解刑しなけ限り革命战争に於てブルジョアジ 製反動切子を粉砕することである。十二は革命战争に反 年代階級十争へ 括より、重連設こそが現代革命の核心であることを知り することはできないのである。 政治課題としなければならず、この党括をはし得ず六の 対する諸党派との手いである。がひは昨秋安保決成の党 二の革命の軍隊に至人民武装を統合することを与后へ とのキリである。 の反動的回帰や、 敵階級より送りこまれた右 大衆の自然発生性 ーに勝利 に期

亘って、 であった如くに、社会民主主義の未来は写后長い年月に 介自身の個性をつくりあげつつあるところで、運動を正 覚はいままうやく形かくうれつつあり、 決をあわるには未だほど衰いのであるしロシアでもそう しい意からひき離するそれのある他の革命的別類との対 にとって又理診の意義は更に強められる。「オーに供が 、革命的理訟乃くして革命的運動もありえばいじれ 一にどの色あいが強まるかによって求足される し我なも又称りなりである。 リまょうやく有

2" 降级形成 たりら、労のが単に生活のための手段にるのみからずみなたりら、労のが単に生活のための手段にるのみからずみないり、当れたりとのは、一つのでは、一つのでは、これととのは、一つのでは、これでは、これでは、 战略战術を正しく提起することにあるとして文字通り 即ち個人が用业に奴隷的は定属をすることがかくなり が我なけ 批判と共産主义診が持くてはならない。写称々は共産主 飛級手争として徹底して当っためには、資本主义社会の 大型を階級として形成してゆくこと、そのための理論と 果すことができるにへ **下にてる。** 文論を極知中であり比処に提示することはできない。だ 労のそのもりがオーのは活然来となったりち、 先進的万理论に喜か レーニン人が以は総合運動に於て 川る党だけが前途手士の役割を がなくはって 仙人

そする可能性を与えてくれる。 産主义社会にあっては、 では後ろがいんは非他的は活動範囲をもつことができる共和名人がどんは非他的は活動範囲をもつことがはく、どん すさにそのことによって私に、与目はこれ、 は無互取り、夕には家畜を飼い、夕食の後には批判をす は批判者についぞがることかしに朝には称りまし、 社気が宝んの生産を規制 社 「まり術人、寝師・ ドイデン 明日はあれる 牧看♥ し、ま 忍に

えしたは Ú 於ては、反何子学を以手的に手った手争奏の諸君さえも ことである。 た党群は前記の如くであるが、 我はり一時電子争が真の階級斗争にで既発展し得力が 쿠 | 1 私はか 試斗部隊の欠如があげられるだろう。最終過程に の目標を見失り繁嘆すべきことには、 かりの新人社員が非常に战斗的であったという リたい では何政斗争委の諸君が目標を見失いて け川と組合ををえると云々 更にもう一つの定括と 組合に加 11 う旅

0)

研支創

各人はその必要に心むてアレヘマルクスンっところが

各人はその能力に応じて、

**定
全
に
脳
み
こ
え
る
こ
と
が
で
う
、** 

的富のあらゆる泉が一层豊に羽え出るようにないたの

プルジョ

ア的取利の吸い限界を 社会するの旗の上にこ

の全面的口光展に伴なり

て生産力も増大

加固社会

う苦くことができる。

活設計万ではゴミ箱に投げすてるべきなのだ。 からく、階級斗争を荷り切れない旅なブルジョア的生 のブルラョア的生活へ奴隷の生活しを固定化した所か り、写角永久に手軍しなければならないだろう。自分 は役らの中に巣食うブルジョアイデオロギーのせいで 北亡せんとする諸君は語るに落ちる存在である。これ をもり出して已り気持をごまかすのか。勿談やりたく に欠ける旅はことになるのか。 からる変革の意志もエネルギーも生まりるけず いとか尾室がないからといって前線 切れぬ我々の弱での反映であ 何政自分自身の主体的発言 何政「租后」けるもの

足りるなにうことえる。そのためにずが細胞は星力を 共産主义者の任務は、 自らの体内に存在する銀合主义を一掃する斗いに求 併々は子年委を中心とする近年的活動家語名に対し 州州老を路殿として地理させ

革命に合けて座てのプロレグリアートを組織すること にある。、延史の全型動は、共産主义を現実的に産出

> 築してくれるであろうことを信じているからに他はらば ず、ただひにすら革命の事业に献身できるのは、 の理想ではいい。われわれが共産主文とよびところの 存している内に革命を起しえなくとも、サマの息る意が あるにヘマルクス・経哲手稿〉我々が苦難とものともせ マルクス・ドイデン のは現在の状態を廃止する現実的運動のことであるい らかり状態、現実が則るべきへであるようなしな人ら 見て継いで心らずやブルショアジーをこの他上から一掃 正生の必然性をそり根源に於て衝察しており、我々の生 まに、共産主义の生成の理解され、かつ知らりた運動で い。革命とはプロトタリアートの偉大は一大事业である あるように、 「共産主义は我々にとっては、つくりださるべき何 御やかしい理想の王国『自由の社気』妖意主义を构 同様に共産主义の見をする意識にどっても 共產主义力経験的現存在の生誕行為 —

我的型備を付すべきなのか。党都他と大衆にけては階級 形成はあろか。ラ争を推進してゆくことも不可能である 我行が大型を整般としてきたえあいるにはい か行る組

なって、国面的政治バクロを通して有分主义の理论をプ 造の作业であ 着手也はばなうのい。 ず、宣書と斗争により自りを鍛え、常に大瓜の先頭に立 と大歌の結合環として まって、圧面的政治バクロを通して社员主义の理论をプレーする。オーに細胞質は常に自らな着がはければならず、に変えること、これを革命党がそりもてる理论と組織によるに関って指導する人細胞はオーに革命党を自らを助征の収されてゆくのであり、この自然党生性が自治意記性、一に期するのである。細胞は生命ある革命の組織として組の収されてゆくのであり、この自然党生性が自治意記性、一に期するのである。細胞は生命ある革命の組織として組 生的は手量は必然的にブルショアイライロヤーのもとして作ければ革命党は存在できず、よって世界革命战争 の建設が早気に与されらくては「ひらない。大般の自然発 って

キか

わ い以上へ非合法党)党の指導のもとに社価は大众を教育 ことである であり、マルケス・レーニンを中心とした著作の學習で 故に大衆の革命的は名階层を代表する者でなければはら ロレタリア 大衆の自然発生性をヒから組織するものとしての部隊 、未るべき階級決成に向けて、星人民武装の組紙やに それをいけに現代的に継承してゆくりかという割 ければ行らび トに外部注入しなければならない。この党 門級斗争的」 そ明以に社面の活動のオーは常習 社研しを常出する。 い。覚は勿診表面に出られな 共商主文於しを学次 **社研はそれ** 四月行 **勉細胞が大众の自然発生性にのりこえられる様では斗** 地でもあり、 うない 党細胞は自らの力で自らの組合の引いを満わびければは け出 又組合り成果を覚細胞の血肉と化し、自りを鍛え上げ ければならない 階級的にきたえ、文字通り革命的労仂者として種類しば 士を我々の周囲に結集させ、 うない。全階級斗争が要求する課題を独合に持ちこみ 付敗止し、革命への何らの蓄積もなさ し普遍化する能力を獲得してゆかなくてはガラらい 御胞員にせ上は何員にせ上誤まりや失敗を恐れてはら ばならない。オ四にこうした活動を通じて多数の同 大かには大胆に向題を促起してゆかなくてはな 革命党の政治的根拠他であり、 古的組織とものうなければりうない 自分産う斗りを急指し、そ川を理能化 紅胞を強化する。労力者を 川得八 軍事的存取 い。米三に て 「j

所作与TSMe 9

「革命的練産と組むるとしての手腕はあ ń

√党細胞は勿診、党建設路線カー環として種類され

 $T_{\lambda}$ 15

らない。

た

と資本の圧制とから全人民と全勤労者を解放するために ン・ストライキについて)であり、労力者が役人の圧制 べきではない。ストライキとは「戦争の学校しへレーニ スト実は真に華命的が付着のみによって担めればいれば 化なければならず、 包分変の敵に対する战争を行う直を学ぶ学校であるい ははらない。ストライキ中はスト実の実权を社研が執り 我はは一時盈斗軍の敗北の記括至真剣にうけとめ、大 似をプロレタリアー 战争を行っには司や部ー いを常に先進的に切り用いてゆかなければならない。 が中心とはり次回の斗りから総てを高ってゆかなけれ 下手方ブルジョア民主主義によって登出される 社研しの創設を訴える。そして社研のメンバ 司甲部とは党組的へあるいは党の指 トとして鍛え上げる部隊として早急 将校団一兵士の陣型が布陣で

> 勝利することは出来ないのである。つまリスト中の一切 部」して大公しを成子のそれに切り換えなければ決して 尊を受けている軟行部 )に当り、 当るりである。 証法的関係を代々は把握していなければならないという の战斗の指揮は、スト実しが取らなければならはいので ことである。 ある。要約すれ ストライキは、平時の組合の陣型で ば、党一先進的集団(階級)一大众の分 将校田が、スト定し 15

は革命的活動を断世と下る人々の組織であり、文字通り 組合に党の役割をさせてしまうのである。革命家の組結 争手段の一つにすぎない ブルジョア权力との激烈な計りを計りぬける組織でなけ 彼らはそれによって労仂者階級の成長と成功を遅うせ ればおらはつ以上、あまり広範なものであってはならず しまうだろう」ということも知らなくてははらない。 何於我なは草命家の祖林と祖南本女是同下る形かり大 だがっストライキは労力者階級の自己解放のための手 もし労仂者が他の斗争手段に主義を何けないるら、 経済主义者・組合主义者は常にこれを混同し のであって、唯一の手段ではは

Q

るだけ秘密ではいもりではければわらない。屋主と政行 私価さえ強化されるから何も恐れるものは存在したり。 うに、一切の毒麦をぬきとっていくのである。単細胞と たてることからはじめるから、運動団体に確固さを保障して、もしめばりりに に対して斗争するためには国籍が必要であることを理解 し、社层民主主义的万目的艺も、本来の組合主义的目的 している行の者なら誰でも組合に参加させても良いので 又被密が保持これ方ければ万ら月 組合はできるだけ仏範がもりでなければからず、でき もしかれわれが強国は華南家が組織をしっかりとうち ン・何をおすべきか) 我ははこの中で一時間で経済主义者を明確したよ 両方とも実現することができるであろういへしし これに反して州 二中初

### 后 17

草屋再編及なしとが、労仂者に対する本格的な反革命攻 とによってのか前進する。同回の一時位三年で資本は反 草中は独力の区革命をつくりだし、それをかち破るこ

84 KK 掃しなければガラない。あれだけの革命的斗争をはした 争に専見し、自らの体内に策くうブルジョア的残濫を一 撃を麻粕してくるであろう。それを粉砕しうるのは我々 だけであり、我々が強くなることによってのみである その国苦をのりきることによってのみ我々は強くなり、 我では飛跃しなければなうない。敵はブルジョアジーば 一瞬たりとも見ろことのく、里力をつくして学習に、 大於も又敬えられるのである。 何の斗いは前にもすして東に苦しいものとなるだろう。 かりで行く、大众の中にあるブルジョアジーである。日 以上、その切り前のた地平を引き継いでゆくには、 更に 4

が叱要である。それ故に執行部三役は敗復的に同一の 教行委員や無能及教行委員を選出しては、おうる! 向が選出されはければはらず、その下に圧ての執行委員 させはけいばならず、又、指導部内の第国はる意志統一 部は優秀なる指導能力を理论を持っているければなった は移集しなければなうない。大瓜を腐敗堕落させる様な 战争をはすには、大衆を一つのスローがシの下に結集 し、階級意識で武装していけけ ればなりおけったりか

動しなければなりない。ただ役々はプロレタリアートの社が質は常習でも斗いでも常に大众の先頭に立って活組合にきたえあげるべく奮斗されんことを要請する。战斗的活動家諸君は執行委員に立候補し、組合を革命的

解放のために全力を尽すのみである。

る・万国のプロレタリア国話せよう。八天産党宣言が失うもりを持におい。親らの延得するものは空世界であた。、プロレタリアは、この革命によって鉄酸のほかにする。文配階級をして、共産主义革命のまえた戦慄させた。 大産主义者は自分の見的が建設できおいことを公然と言葉で、大産主义者は自分の見解や意図を魔すことをいやして、大産主义者は自分の見解や意図を魔すことをいやし

(大生年)月)

-/8-

